決算審査特別委員会

第71号議案・平成26年度白石市一般会計及び特別会計歳入歳出決算の認定について及び第72号議案・平成26年度白石市水道事業会計利益の処分及び決算の認定並びに白石市下水道事業会計決算の認定についての2議案は、定例会2日目（9月7日）の本会議において質疑が行われた後、議長及び監査委員（小川正人）を除く全議員で構成する決算審査特別委員会が設置され、審査が付託されました。

同委員会（委員長・四竈英夫、副委員長・管野恭子）は、9月9日及び10日の2日間にわたり審査を行い、表決の結果、全会一致で原案のとおり可決及び認定しました。

審査の中で議論された主な点は次のとおりです。

一般会計

総務費

〔質疑〕交流事業の推進について、新竹白石親交会と連携のもと、台湾新竹市との新たな交流を進めており、今年が2年目であるが、新竹市訪問事業によるその成果と今後の取り組み・計画等について伺う。

〔答弁〕新竹市との交流は、白石と新竹北の両ロータリークラブが30年以上の交流をしている縁で、台湾新竹市と交流を図り、異文化交流、国際的視野の拡大と台湾からの交流人口を呼び込むことを目的に、平成25年11月に新竹白石親交会を設立した。

平成26年6月26日から29日まで25名の訪問団で新竹市を訪問をしている。今年度も、6月28日から7月2日まで25名で訪問しており、交流が大分深まっている。

今後の取り組みについては、平成26年11月に新竹市長選があり、市長がかわったこともあり、平成26年度中に新竹市から白石市への訪問がなかったという事情がある。今年度の訪問時に、白石市への訪問をお願いし、ぜひ行きたいという話をいただいた。

今後は、新竹市の状況を見ながら進めていきたい。

〔質疑〕白石市民バス運行管理事業運営状況について、利用人数が、前年度より減っている。1日当たり33人の減であるが、これは何が要因であると考えるか伺う。

〔答弁〕前年度比で2千人以上利用者が減少した路線は、越河線・三本木線・小原線の3路線である。一方、利用者が増えた路線は、白角線の1路線のみという状況である。

越河線は、2千143人の減少で、運賃収入は30万2千700円減少している。これは、主に有料の高校生や高齢者などの一般利用者の減少が要因であると分析している。

三本木線は、2千483人の減少であるが、運賃収入は5万7千400円増加している。これは、主に無料の小・中学生の減少が要因であると分析している。

小原線は、前年度比で2千12人の減少で、運賃収入は27万3千200円減少している。これは、主に有料である高齢者などの一般利用者の減少が要因であると分析している。

一方、白角線は利用者が345人増加しているが、運賃収入は8万900円減少している。これは、無料の就労支援施設利用者、小・中学生や有料の高校生などの利用が増加したが、高齢者などの一般利用者の減少が要因であると分析している。

過去3年における利用者の状況は、運行路線地域における少子化、定期的に利用する高齢者の減少が主な要因として利用者の減少につながっていると考えられる。

〔質疑〕バスの時間帯が、利用しにくいということも原因の一つになるのではないか。

〔答弁〕平成20年度以降、利用者が減少傾向にあることから、平成26年度上半期において各地区で市民バス懇談会を開催した。懇談会において、市民バスの現状を説明し、その後、利用者増を図るため、地元の意見や要望を運行委託費増加や運転手増員を伴わないという範囲で聞いている。それらの意見・要望を精査・検討し、平成27年度の運行計画に反映している。

具体的には、三本木線で昼間の時間帯を1便増便して運行している。越河線では、買い物を中心とした特別便を運行している。

また、刈田病院のシャトルバス廃止に伴う直通便の運行、小原線に観光客を呼び込むため、『白石市アンバサダー』の森川智之（もりかわとしゆき）さんによる温泉案内などを実施している。

〔質疑〕スパッシュランドしろいし運営状況について、平成25・26年度ともに利用者が増加しているが、その内容について伺う。